

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2375300270		
法人名	株式会社クレイドル		
事業所名	グループホームもみの木 (西棟)		
所在地	愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字北東川171		
自己評価作成日	平成26年11月 5日	評価結果市町村受理日	平成27年 5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JivgyosyoCd=2375300270-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JivgyosyoCd=2375300270-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年11月30日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブログの発信。</li> <li>・大きな声で明るく誰にでも(お客様、利用者様、ボランティア)挨拶する。</li> <li>・ご利用者様の誕生日の外出、外食の支援。</li> <li>・地域との交流に参加。</li> <li>・家族と行楽に出かける。(バス旅行)</li> <li>・毎朝、天気の良い日は散歩に出かけている。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>ホームの落ち着いた雰囲気は、いつ訪れても変わることがなく、利用者の穏やかな日常が容易に想像できる。毎朝の日課になっている散歩の継続、健康体操の実施で利用者の健康管理を推進し、活気ある日中支援として様々なレクリエーションを工夫し、心身ともに健康になる取り組みを実践している。訪問調査当日も、散歩から帰った利用者と職員が健康体操で体を動かし、休む暇もなく風船バレーを楽しみ、大きな声が飛び交う活気を感じることができた。風邪を引く方は殆ど無いと言うほど、ホーム独自の健康管理は功を奏している。また、今年度は特に感染症予防についても力を入れている。掃除の徹底で感染症を予防することはもちろんのこと、疥癬予防では利用者の衣類管理の徹底を行い、タオル等の直接触れるものは個人毎に別にする徹底等、思いつく限りの支援を実践している。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・もみの木の理念と使命を朝礼に唱和し、全職員に徹底周知を行なっている。 ・社長のもみの木の考え方を朝礼で伝えている。	朝礼で理念を唱和し、周知を図っている。また、毎日のショートミーティングで情報を共有し、理念達成に向け、意識付を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域との交流、行事に参加(弘法様、盆踊り、カラオケ同好会) ・毎朝の散歩、近所の喫茶店に出かける。 ・隣の保育園の園児、小学生との交流。	農作物の到来物があったり、ボランティアの申し出があったりと、地域に根差したホームである。散歩や園芸のボランティア、地域のカラオケ同好会のお誘い、保育園との交流等、利用者の楽しみの交流となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・キャラバンメイトでの地域への発信。 ・扶桑町徘徊高齢者捜索模擬訓練への参加と取り組み。 ・認知症サポーター養成講座受講済。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、9~10名の参加があり実施している。 (家族から2名、地域から2名参加して下さっている。)	運営推進会議は年6回開催している。毎回多数の出席者が集い、ホームの活動報告を通じて意見や情報の交換を行っている。協議した内容は、職員周知でホーム運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議に毎回参加して頂き顔なじみの関係が築けている。 ・扶桑町高齢者保健福祉総合計画推進委員会の委託を受ける。	管理者は、町の高齢者保健福祉総合計画推進委員会に委員として参加し、高い意識で社会貢献を考えている。徘徊訓練参加やキャラバンメイト等、協力体制がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束を絶対にしないという方針で行なっている。 ・玄関の鍵は朝8時~夕18時まで開放。 他の時間はインターホンにて対応。	管理者は町の虐待委員会に委員として参加し、身体拘束を行わない方針を職員に周知し、実践している。外部研修にも積極的に参加し、正しい知識と理解を職員を指導している。利用者に対する安全確保についても、工夫と検討を重ね、一切の拘束を排除している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	扶桑町高齢者虐待ネットワークの運営委員の委託を受ける。年に1回会議あり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し理解していつでも必要とされる方においては地域の専門職の協力が得られるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所前に家族に説明、契約し同意有り、何か不安や疑問点についてはいつでも対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ホームページ(ブログ)にて発信している。 ・もみの木新聞を毎月発行。家族、他にも郵送している。	定期的に家族アンケートを実施し、意向の確認を行っている。常に家族に対する情報提供に努め、意見を出しやすい環境を作っている。聴き取った意見には迅速に対応し、運営や介護計画に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を行なっている。	不定期の全体会議や毎朝のショートミーティングで、意見や提案の聴き取りを行っている。職員からは、管理者の対応の早さについての信頼感が厚く、やりがいのある職場環境となっていることがうかがえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・代表者との会議があり賃金、夜勤手当などの改善あり。 ・年末年始の出勤者へのお年玉支給あり。 ・スタッフの休み希望を100%受け入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修(費用あり、なし)を受けて頂きスタッフに支援あり。 ・毎朝のショートミーティングの勉強会あり。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・同法人のグループホームとの交流会あり。(あつた荘、いせ木) ・扶桑町GH合同研修。 ・愛知県、全国GH連絡会に加盟あり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援専門員が利用者様と時間をかけながら(さぐりながら)関係を築き援助計画書を作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも施設見学をして頂き、家族が困っておられることを会話から聞き出し、それに基づいたサービス計画書を作成。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員が親切丁寧に本人、家族と話し合いながら進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・家族との訪問の時間を大切にしている。 ・利用者様と職員も食事、おやつ等も一緒に頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・年2回、利用者様、家族と共に春の行楽(バス旅行)、秋には収穫祭を行ない家族と共に過ごせる場所を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・利用者様が近所で親しくされた方の訪問あり。親戚や同級生等の訪問あり。 ・入所前に行っておられた喫茶店、スパー。	友人や知人の来訪、親族の面会等で、馴染みの人達との関係が途切れないように支援している。週末の帰省、家族外出等、家族の協力でも馴染みの関係の継続が叶っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に入られてしまわないよう、リビング、フロアーにてレクの支援をしている。 (歌、パズル、塗り絵、風船バレー、買い物、散歩等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院が長引く方で退所されても、時々入院先へ出向いている。 ・退所されても利用者様の家族との連絡、年賀はがき等で引き続き関わりをもっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の生活歴を大切に情報収集させてもらっている。困難な場合は勉強会、研修に参加させてもらっている。	日常支援のコミュニケーションの中で、利用者の意向を把握している。また、定期的な家族アンケート実施で、利用者から家族しか聞き得ない情報の共有を図り、同時に家族の意見も聴き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人住まいの方が多くなっており、なかなか生活歴が分かりづらく入所してから細かく一人一人の行動、会話の中からさぐりながら進めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日のスタッフの日報、ショートミーティング等から細かく情報を得ている。 ・毎朝のバイタルチェックも重視している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員の細かく的確なアセスメントがなされ、家族・本人に説明同意をもらいそれに沿って援助計画し実行している。担当者会議にて見直す体制になっている。	基本的には3ヶ月毎のモニタリングと6ヶ月毎の見直しを実施している。家族の面会時にサービス担当者会議を開き、利用者の思いや状態変化に対応した介護計画を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個々の記録類は各棟事務所のファイルにて見られるようになっている。朝礼やショートミーティングで情報を共有している。 ・朝礼時、介護支援専門員より見直しがあれば発表あり。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・決めたらまず実行し、疑問点が出ればすぐに見直しをする。 ・新しいことは早く取り入れる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・消防避難訓練。 ・スタッフ全員の救命救急講習の受講。 ・ボランティアさんの受け入れ。 ・保育園児、小学生、中学生とのふれあい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用者様、ご家族の希望される医療機関への対応。 ・提携医の往診、看護師との医療連携。 ・緊急時の病院への対応。	現在は利用者全員がホーム協力医をかかりつけ医にしており、月2回の往診を支援している。医療連携の訪問看護師の週1回の訪問があり、健康管理を行い、主治医と適切に連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	内科医院との医療連携・業務委託でき、より良い適切な助言をしてもらえ、気楽に相談できる関係が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されると面会に出かけ治療方針で早く直るよう支援し、退院許可が出ればすぐに受け入れ可能にする。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・提携医、ご家族、ご本人、スタッフ等とその都度話し合いながら段階的に終末期に向けて安心して安心して頂けるようにしている。 ・医療行為が発生した場合は困難。	本人と家族の意向に沿って、ホームで出来る限りの支援を行うことを方針としている。医療行為が発生した時点で、医師から家族に説明を行い、医療機関へ移行の支援を行っている。手厚い介護は職員の周知するところであり、現在まで複数の事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・全スタッフの救命救急講習を受講する。 ・AEDの設置。受講済み。 ・応急手当普及講習受講。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・夜間想定避難訓練。 ・近場のスタッフが多い。	夜間想定避難訓練、消火訓練も含め、年3回の訓練を実施している。消防署立会いの訓練を年1回行い、避難経路の確認や一次避難場所の指導等を受けている。職員全員が救命訓練を受講し、ホームにAEDを設置する等、有事に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個人情報の記録等は事務所の鍵付きの書庫に保管している。 ・入室、トイレ等に入る時はノックをしてから入る。上から目線で話さない。(命令口調や言葉遣い)	利用者の訴えには耳を傾け、言葉や態度から気持ちや思いを汲み取り、適切に対応している。個人を尊重した対応で、不快な思いをさせないように配慮している。職員には「自分がされて嫌なことは絶対しない」という共通意識がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人お一人の誕生日を大切にし、出かけた所や食べたい物を聞き、出来る限り願いを叶えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク等は個々のやりたいことを優先し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・女性の方の理美容(カット、顔剃り)毎月あり。 ・男性の方の床屋。毎日の髭剃りの支援。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食卓、膳拭き、食器拭き、お茶を入れ、配膳の手伝い。 ・スタッフも一緒に食卓で同じ物を頂いている。	食材の持つ栄養源を無駄にしないと云う管理者の考えが全職員に周知され、愛情のこもった食事として提供されている。両ユニット同メニューで、分担して調理を行い、職員も同じテーブルで同じものを食べ、何とも家族的な雰囲気の食卓となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・水分摂取に心がけている。 ・個々の食事量、粥や刻み食等に対応。 ・透析の方の食事の内容、水分には特に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・昼、夕食前の健口体操。 ・毎食後の口腔ケアをチェックする。 ・毎週日曜日に義歯と歯ブラシ等の消毒。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・朝、昼、夕毎日の排泄表にチェック、排泄のパターンを把握し次の日へつなげている。 ・オムツ類を減らし、ゴミも少なく家族への負担を軽減。	トイレでの排泄を基本に支援している。一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間誘導等の適切な支援で、尿意のない利用者のトイレ排泄も可能にしている。手をかけ手間をかけた手厚い支援に、家族からの感謝の言葉が寄せられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分摂取に心がけている。 ・献立はバランスの良い食事内容に心がけている。2名で献立を立てている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外は毎日入れる。東棟(月・水・金)西棟(火・木・土)お一人お一人スタッフが見守り・介助をしながら入浴して頂いている。	入浴を楽しむ事が出来るように、本人の希望に合わせて支援している。毎日の入浴にも対応可能である。一対一のコミュニケーションの機会として、入浴を楽しみにしている利用者も多数おられ、職員もその気持ちを汲んで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・昼夜逆転しないように、昼間はレクや散歩等活動して頂いている。 ・眠前薬は全員服用中止にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬は個々の箱にセットしてから服用までに四重のチェック体制にしている。 ・提携医の往診時に最少限の薬処方になるよう見直しを頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・食事前の食卓、膳拭き、配膳、洗濯干しやたたむ等、役割分担をさせてもらっている。 ・季節や行事等に心がけている。 ・散歩後のコーヒータイム、おやつ等楽しみにされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・毎日天気の良い日は30分程かけて近場へ散歩に出かけている。午後から出かけることもある。 ・誕生日の外出、外食の支援。 ・家族と共に行楽に出かけている。	毎日の散歩は日課になっており、利用者の楽しみの時間である。誕生日外出の楽しみとして、個別対応で、本人の行きたい所や好きな物が食べられる場所へ外出している。職員との外出が主であったが、最近は家族同行を推進し、利用者の新しい楽しみになっている。その他、行楽バス旅行等、行事外出の機会もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的に本人にお金を持って頂かないことにしている。家族との話し合いにて財布を持っている方もおられる。(責任を負えないことを伝えている)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の頻回な訪問もあり遠方の子供さんには「もみの木新聞」やブログにてお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・毎朝の掃除には特に気を付けている。 ・掃除機をかけた後、あらゆる所を消毒で拭いている。 ・エアコン等の温度調整、除湿機や加湿器等を使用し環境を整えている。 ・季節を感じて頂けるよう切花を生けている。	共用空間は日当たりもよく、自然にうとうととしてしまうような、落ち着いた環境整備がある。日中のほとんどを共用空間で過ごす利用者も多く、居心地の良さがうかがい知れる。隅々まで掃除が行き届き、清潔保持にも何ら問題はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビング、エントランスに応接セットがある。 ・エントランスには大きな水槽があり金魚を飼育している。真っ白な猫も飼っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・動物以外の持込はOK。 ・退去の事を考慮し、最少の荷物を持参される方が多くなっている。	居室には入居前に使用していた馴染みの家具が持ち込まれている。家族の写真、お気に入りの置物や植物などを配置し、特に、寝室として、安心して落ち着ける環境整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一階平屋建ての建物で環境面・安全面・両ユニットの交流が出来、スタッフや利用者様の共同生活に大変便利。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375300270		
法人名	株式会社クレイドル		
事業所名	グループホーム もみの木 (東棟)		
所在地	愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄川171		
自己評価作成日	平成26年11月 5日	評価結果市町村受理日	平成27年 5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2375300270-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2375300270-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブログの発信。</li> <li>・大きな声で明るく誰にでも(お客様、利用者様、ボランティア)挨拶する。</li> <li>・ご利用者様の誕生日の外出、外食の支援。</li> <li>・地域との交流に参加。</li> <li>・家族と行楽に出かける。(バス旅行)</li> <li>・毎朝、天気の良い日は散歩に出かけている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で利用者様への「理念と使命」を唱和し、日々の業務に心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、地域の盆踊りや弘法様、地区のカラオケ大会などに招待して頂いている。近隣の保育園や小学校・中学校の訪問がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトへの参加。全職員が認知症サポーター養成講座を受講している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場・地域包括・民生委員・ご利用者様・ご家族・地域代表の方が出席して下さい、年6回開催。認知症や精神疾患について、口腔ケアについての勉強会を開催することもある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居希望者の情報提供や空き状況などについての情報交換や扶桑町高齢者保健福祉総合計画推進委員会の委託を受け会議に出席することで顔なじみの関係ができています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は施錠をしない。身体拘束は絶対にしないという取り組みをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や更衣・トイレでの介助の際にアザやけがなどがないか確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加して理解するようにしている。必要な時は地域の専門職の協力を得られるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点や心配事など聞き取るようにしている。安心して頂けるよう、分かりやすく説明をするように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月ごとにご家族へ、ご利用者様への職員の態度や施設に対しての要望などについてアンケートを実施している。集計後に全職員に伝え改善点については早急に改善をしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社長と管理者による会議があり、朝礼での申し送りや回覧を通して全職員に周知している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休み希望を重視し勤務表の作成をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自治体や民間主催の研修にほとんど参加している。研修で得た知識を早速実施し、全職員がレベルアップ出来るよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に4回、同町内のグループホーム合同研修が開催されている。それぞれのグループホームの見学会や取り組みについてなど情報交換の場になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からの聞き取りが難しい場合はご家族にお聞きしている。ご本人との普段の何気ない会話を聞き漏らさないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お話をしやすい雰囲気心を心がけ、困っていることや心配していること、想いなどをじっくりと聞き取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設の見学をして頂き、困っていることや心配されていることなどじっくりとお話をさせて頂き、納得をされてから申し込みをして頂くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事や家事をするだけでなく、冗談を言い合ったりすることや人生について教えて頂くこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時や毎月送付している生活状況にてご本人の様子を伝えている。ご家族が参加して頂けるような行楽や行事を開催しご本人と一緒に過ごす機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの喫茶店に出かけたり、仲良くされていたご近所の方の訪問がある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のレクだけでなく、皆さんと一緒に参加できるレクや家事を提供したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退所になっても、訪問やはがき・年賀状での連絡をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の面談、入所されてからも普段の何気ない会話に本音が聞けることがある為、会話の機会を大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族から出来るだけ詳しくお聞きするようにしている。独居の方の場合は聞き取りが困難なこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報への記載内容や朝礼やショートミーティングでの申し送りにて1日の様子の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の希望、アセスメントや職員からの情報や意見等をふまえ作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報への記録や介護計画のモニタリングを実施し状態の変化に対応し計画を見直している。研修で得た情報を早速取り入れ実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日の日に行きたい所や食べたい物などお聞きし出来るだけ希望に沿うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全職員の救命救急講習を受講している。ボランティアの受け入れをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望される医療機関への受診が出来るようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医の訪問看護の契約をしている。利用者様の体調に変化や心配な点がある時は電話連絡にて相談し指示や助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	すぐに面会している。ご家族との連絡や何度も訪問しご本人の様子を把握している。担当医・ご家族と治療や退院後について相談できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携医・ご本人・ご家族・職員と話し合いをしながら状態に応じて対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が定期的に救急救命講習を受講している。AEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練の実施をしている。定期的に消火訓練を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への入室やトイレや入浴時のドアの開閉時等、ノックと声がけを必ず行ない配慮に気を付けている。丁寧な言葉遣いを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の表出が困難な方も、選択肢を挙げてご自分で選んで頂けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごされたり、フロアーで新聞や雑誌を読まれたり、好きなレクをされたりと出来るだけご本人のペースで過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な理美容。男性の毎日の髭剃りの支援。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	役割分担で食器拭きや配膳等をして頂いている。職員も同じテーブルで同じ食事を頂いている。利用者様と職員が談笑しながら頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の状態に合わせて、粥・半粥やおかずを刻んだりと形状を変えて対応している。いつもこまめに水分を摂って頂くように気を付けている。透析の利用者様の水分と食事は医師の指示通りに行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実施し、口腔ケアのチェック表に記入している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にチェックすることで個々の24時間の排泄のパターンを把握している。尿意が無い方も誘導して出来るだけトイレで排泄が出来るように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩やレク・体操等、体を動かす機会を作っている。食後のトイレ誘導。毎食、野菜をふんだんに使った献立作りや水分を十分に摂って頂くように気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外は入浴できる。ゆったりとした気分でご利用者様の個々のペースに合わせて入って頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、出来るだけぐっすり寝て頂けるように、体調に合わせて日中はレクや家事に参加して活動的に過ごして頂くように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセットから服薬までに四重のチェックを行なっている。服薬の際には誤薬が無いよう名前と日付を声に出して確認をしている。口に入ってから飲み込むまでの見守りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なこと等を活かして頂けるよう縫い物をして頂いたり、好きな塗り絵やパズル等のレクをして過ごして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は毎日30程散歩に出かけている。誕生日の外出や外食の支援(家族が同行することもあり)、喫茶店や地域の催し等に参加している。年に1度多数の家族も参加されバスでの行楽。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分での管理が難しい為ご本人・ご家族に説明しお金は持って頂かないようにしている。希望により持っておられる方もみえる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知り合いの方等、頻回に訪問がある。はがき等返信が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花壇で育った花を飾ったり、ご利用者様が作った貼り絵や塗り絵をその季節に合わせて展示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エントランスの応接セット、フロアーにはソファーや応接セットもあり各々が好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物を持って来て頂くようにしている。ご家族の写真を飾られている方やパソコンを持って来られている方もおられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	平屋造りで全面バリアフリー。共用のスペースには場所が分かるようにイラストや文字で表示をしている。廊下には手すりがあり、杖歩行の方もより安全に歩行して頂けるようにしている。		